東洋大学図書館ニュース

ΚΟΣΜΟΣ

Vol. 13, No. 3 (No.42) 1978. 10. 20

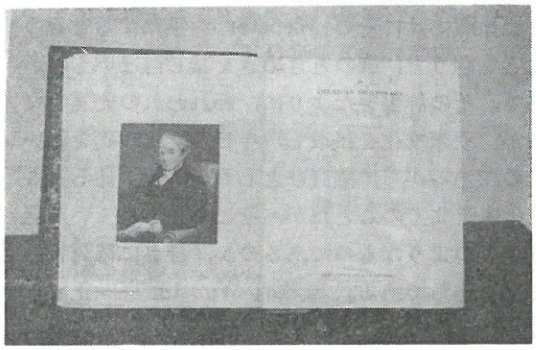
蔵書から 1
朝霞からの手紙 2
読書案内 3
参考図書解題 4
雑誌名変更について 4
本学に学んだ人々 5
投書箱から 6
日誌(53年6〜9月) 6

蔵書から

ウエブスターの初版辞書

文学部教授　荒　木　源　正

Webster の初版本 (1828) —— 正確には An American Dictionary of the English Language——が購入されて，貴重図書に指定されたという。初版本は2500部印刷されているので，戦前は夜店でも売られていたようである。明治文化の研究家として知られている柳田泉氏が座右において愛用された Webster もこの初版本だったが，それも夜店で購われたものだった。しかし戦後は神田の古書街でもみかけることはなかったから，稀覯書なのかも知れない。



この初版本であったのか，それとも簡約版 (1829) だったのか判然としないが，ともかく Webster をわが国にはじめて輸入したのは，福沢諭吉と『英米対話捷径』(1859) という日本人最初の英会話書を著わした中浜万次郎であるといわれている。ふたりは咸臨丸で渡米した折，サンフランシスコ市内見物中，それぞれが購い持ち帰ったのがそれで，万延元年 (1860) のことである。「是れが日本にウエブストルといふ字引の輸入の第一番」と『福翁自伝』にみえている。

福沢諭吉は，本来，蘭学を志し，はじめ長崎に赴き，ついで大坂の緒方洪庵の適々斎塾で研鑽に励んだのだが，「今我国は条約を結んで開けかかって居る。左すれば此後は英語が必要になるに違ひない。洋学者として英語を知らなければ迚も何にも通ずることが出来ない」(『福翁自伝』) と考えて，英蘭辞書を唯一の頼りに独学で英語を修めていたときであったから，Webster にであったときの，その感激はどのようなものだっただろう。

わが国最初の英和辞書は『諳厄利亜語林大成』(1814) である。しかしこれは語彙こそ約7000語を収めているとは言え，単語集のようなものであって，しかも写本だったので，蕃書調所で編纂された『英和対訳袖珍辞書』が本格的な英和辞書の最初と言ってよい。だがこれが世にでたのは文久2年(1862)のことだから，諭吉はそのときまだこの英和辞書の恩恵にあずかっていなかったのである。もっとも，この辞書は，たとえば police を policy と間違えて「政治」と訳したり，また blanket を「毛織ノ夜具」, railway を「火輪車ノ道」というような説明訳をも掲げている辞書なので，たとえ渡米前に公けにされていたとしても，society を苦心のすえ「社会」と訳したといわれている諭吉には，とうてい満足できるものではなかったかも知れぬが……。

福沢諭吉が異郷で Webster にであったときの感動がどのようなものであったかは，容易に想像できよう。そのような感動ではないが，わたしもまた休暇あけにその Webster を手にするときのことを想うと，胸のときめきを禁じ得ないものがある。その辞書をたよりに，われわれの先覚者たちが，欧米文化を摂取し，今日の文化の礎を築いたのであるから，感慨ひとしおのものがあろうことはもとよりのことだが，そこに誌されている記述がどのようなものであるのか，詳さに確認できる期待からである。職業柄 Webster[2]——正確には Webster's New International Dictionary of the English Language (1934) と最新版の Webster[3] とは座右においているし，また辞書編纂の折りには随時参照していたので，それらの内容は熟知しているつもりであるが，初版本となると，それは「幻の辞書」だったのである。

初版本は，Johnson 博士の A. Dictionary of the English Language の1799年版を底本として編まれたものと言われているが，編者 Noah Webster は10年の歳月を費し，20カ国語を学び語原を考証しているだけあって，そこに誌されている語原は当時としては出色のものだったそうである。だが，それでも印欧比較言語学の成果を踏まえての考証ではないので，今からみるとまことに滑稽な語原論が展開されており，語原ひとつをその例にとっても，興味はつきないものがあるはずなのである。もっとも最新版の Webster[3] ですら，たとえば日本語に関しては，あてにならぬ語原が散見されるのであるから，編者の見識を疑う気などはいささかもないのであるが……。

Webster[3] に，英語とみなされて収載されている日本語は，英語に入った最初の bonze (NED 初出は1552年) をはじめ，およそ240語あまりあるのだが，そのなかには〔Jap. baka, lit., fool, fr. ba horse+ka deer〕とある 'baka' や〔Jap. bancha, fr. ban number+cha tea〕とある 'bancha' のようにとんでもない語原論が展開されているのである。「ばか」の語原は，新村出博士の「馬鹿考」(『東亜語源志』所収) にもあきらかのように「馬鹿」ではないことは周知のとおりであるし，また「番茶」の<番>は「一番」「二番」の<番>ではなく，「番傘」などの<番>であって 'number' ではないはずである。

朝霞からの手紙

岩波新書が280円から320円になったこと知っていますか？　読書の秋だというのにあんまりです。でも東洋大生は御安心下さい。あなたの味方，朝霞分館がついています。というのは……。

そうです。文庫・新書コーナーがみなさんを待っているのです。このコーナーには，なんと，

岩波文庫＝1,404冊＋緑色シール付き
学術文庫＝　133冊＋黄色　〃
クセジュ文庫＝　308冊＋橙色　〃
岩波新書＝　693冊＋青色　〃
中公新書＝　473冊＋桃色　〃

計3文庫2新書＝3,011冊がズラズラッと並んでいます。これだけ文庫・新書が揃っている図書館なんて他にはありません。絶対おすすめ。

文庫本買って旅に出て，宿屋でウィスキー飲むのもいいけれど，洋大の君は，文庫本借りて彼女を誘い，喫茶店でコーヒーでも飲んでみませんか。320円ういたんだもの，かっこよくおごったりなんかすると，教養と一緒に彼女のハートも君のもの。て具合にうまくいくかどうかお試し下さい。

読書案内

プログラミング入門

工学部教授　中　村　慶　一

プログラム作成はプログラマの仕事という考え方は，まだ日本では根強く残っているようであるが，本年８月の情報処理学会での森口繁一先生の特別講演でも強調されたように，経済・工学等の各分野に於ても，問題を持つ者が自分自身のアルゴリズム（算法）に従ってプログラムを書き下すということは世界的な傾向となりつつあり，専門職としてのプログラマはそれらをシステム化する仕事の方に急激に移りつつある。

したがって問題を持つ者がそれを素直に表現する方法を説いたものがプログラミングの本の主流を占めそうなものであるが，古い教育を受けたいわゆるプログラマの地位保全の願望のためか，いまだに印刷の書式やら算術ＩＦ文，ＧＯＴＯ文だのと後遺症を残しそうなところから説き始める本が後を断たない。しかしここ四，五年の間にアルゴリズム記述法を中心としたプログラミング入門も出てきているので，各分野の人達のご参考になりそうなものを寸評と共に並べてみよう。

1. ジョン　G.ケメニイ・トーマス　E.クルツ共著，森口繁一監訳，尾崎義雄・神山武共訳：ベーシック入門　共立出版，1971
（549.92：ＫＪ）
これは基礎的なプログラミング手法をたまたまＢＡＳＩＣという言語を用いて説明した形をとっており，問題が面白い。
2. 藤田輝昭：　経営と経済の数値計算
数学ライブラリ　35　森北出版，1974
最後はPL/1に直しているが途中のアルゴリズムの説明は著者独自の表記法によっている。
3. A.V.エイホ・J・E.ホップクロフト・J.D.ウルマン共著，野崎昭弘・野下浩平共訳：アルゴリズムの設計と解析　Ⅰ，Ⅱ　サイエンス社，1977（418.1：ＡＡ）
アルゴリズムはすべて片言アルゴルというＡＬＧＯＬの簡略版で説明されている。
4. ウイルド著，野下浩平・筧捷彦・武市正人共訳：系統的プログラミング　近代科学社，1975
（418.6：WN）
〝良い〟プログラムを設計する方法をＤＡＳＣＡＬを用いて説明している。
5. 中村慶一：　コンピュータによる統計解析
数学ライブラリ　45　森北出版，1977
（418.8：ＮＫ—2）
マトリクスによる統計解析の問題をアルゴリズム記法によって説明し，最後にこれらをPL/1，ＡＬＧＯＬ，ＦＯＲＴＲＡＮに直してみせている。
6. 玄　光男：技術計算のアルゴリズム入門
電気書院，1976　（418.6：ＧＭ—2）
7. 森口・小林・武市：　算法入門　bit連載中
1978
8. ＴＩＮＫＹ：　プログラミングセミナー
bit連載中，1978

何れも著者独自のアルゴリズム記述法を用いてプログラミングの方法を説いている。

自分の持つ算法（アルゴリズム）を誤りなく，他人に伝えることは（つまりいわゆるプログラマに頼んでプログラムして貰うことは），自分の書きやすい表記法でメモを作ることより，はるかに難かしい。このメモが完成しそれを眺めて誤りを訂正し終った段階まですめば，近代的プログラミング言語でプログラムを作る仕事の80%位迄は完了したものと考えても良い位で，問題を持つ各分野の人達は，できるだけ後遺症の残らぬ表記法で，まづ自分の頭の中にある手順を書き下すことに慣れることが先決であると考えられる。

参考図書解題

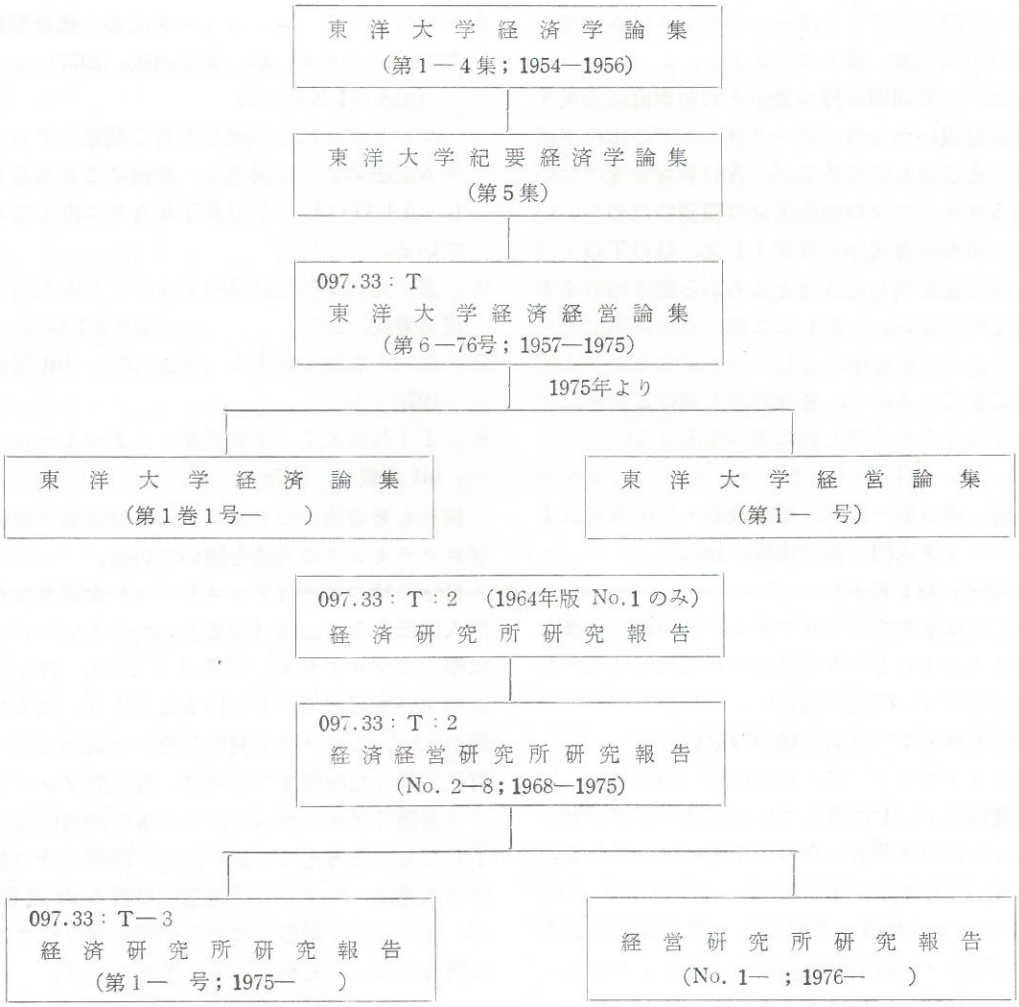
— 朝霞分館 —

現代アジア社会事典　　大和学芸図書
1977　B 5 版　470頁　(302.2：G)

「アジアは世界を動かす原動力である……略……いまや，アジアは第3世界の先頭にたって歴史を動かしている」「われわれの周辺をみわたすとき，西への凝視と追随があまりにも長くかつ強かったのに比べて東をかえりみることがあまりにも少なかったことを痛感せざるをえないのである。」これはまえがきの冒頭の辞である。本書の編集目的はここに要約されているようである。

構成は概論の部と事典の部から成っている。はじめに，アジアの当面する課題とアジアを貫流する基本的動向を理解するために「現代アジアの情勢」と題した解説を80余頁にわたって付している。事典の部は地名，人名，事項にわたって小項目を配列している。日中関係，中ソ問題，朝鮮の統一問題，台湾問題など日本とも深く関連する重要課題をはじめ，国際的スケールで注視されている中東和平問題等今日的課題を歴史的背景をもふまえて，解説されている。現代のアジアを知り，理解する上で，本書は，要領よく編集された格好の参考文献である。

東洋大学発行の雑誌名変更について



(整理課)

《本学に学んだ人々》—⑫—

民俗学者　瀬　川　清　子

＜瀬川先生は，明治28年秋田県鹿角市に生まれ，大正13年東洋大学専門部東洋倫理文学科を卒業なさいました。その後，東京市立一中に勤務するかたわら，柳田国男の門に入り，民俗学の調査研究をすすめられました。先生は，具体的な聞き書きを記録し，生活に密着した事や女性をテーマにした著書を多く発表されています。下記の文章は，先生のお話を編集委員会の責任でまとめたものです。＞

私が東洋大学に通っていたのは，大正の終わり頃でした。ですから，関東大震災があって，そのあと卒業までの半年ぐらいの間は余震が続いて授業中よくグラグラゆれました。

当時，女性のはいれる大学は少なく，大きな講堂のような教室で，男性に交って20人ぐらいの女の学生が隅っこにかたまって講義をきくというふうでした。女どうし皆親しく，流行歌を教えあったりしたんですよ。そして，矢がすりの着物などを着て，もちろん袴をはいていました。

先生は，出隆，和辻哲郎，宇野哲人，といった方々，それから漢詩を教えていた小見清潭，尾上柴舟先生，この先生には万葉集の講義を受けました。半分ぐらいは，先生が学校へ来られるまでの道すじであったおもしろいお話で，そのあと万葉集の歌を，といったかんじでした。でも，今から考えると本当にありがたかったと思っています。

学校の行き帰りには，いつも石壇の上の図書館のわきを通ったのですが，図書館に，髪を長くしてうしろでしばった風変わりな古典的なおじいさんがいて，よく私達女の学生と話をしました。けれど，そこで勉強した覚えがないんです。その頃の図書館は京北高校のところから坂を上って，右側にありました。

東洋大学の専門部を卒業してから，東京市立一中の先生をしていました。戦争が終わるちょっと前まで，20年ぐらい漢文と歴史を教えていました。ですから，民俗学にはいったのも，別に民俗学がわかったわけではなくて，偶然のことでそういう恩典に浴したわけです。つまり，その頃民俗調査の会があって，各府県から村をひとつ選んで調査する計画があり，それに私を加えてくださったという，本当に偶然のものです。それで，村へ行く時に，調査する事を100項目ぐらい書いた手帳を持って行き，そこで聞いてきたことをあっちこっちに報告する義務がありました。そのおかげで，なるべくいいことをたくさん聞こうと一所懸命にしました。

はじめは村へ行って古い習慣を調べるということが，どんなに大事なことか知らなかったものですから，自分より遅れた人の話を聞きに行くという無意識な気持がありました。それで，明治初年日本の人口の80%は農民だったのだから農村を知らなくてはいけない，と自分を納得させて村へ行きました。民俗学といっても，特別な学問ではなくて，日本人の生活の研究ということなんです。そして，なぜ村を調査するかというと，村には自然とのたたかいや，生きていくための古いかたちや生活のしくみが残っているからなのです。ところが，戦後は村が合併されたりして，そういう意味では本当の村はなくなっているようです。昔は，交通機関が発達していなかったから，自分の足で歩いて調査するというかんじでした。今だってそうですけど，一番開けていない所をめがけて行くのですが，人を頼んで山越えして，あっちの部落の方が開けていないそうだと聞けば，そこへ行くというぐあいでしたね。

いろいろな村へ調査に行きますと，例えばアイヌの民俗をみると，この問題は沖縄ではどうなっているのかみたいという気がしますね。本土では男神主ですが，沖縄へ行けばみんな女神主です。女の人が神様を拝むなんてどういうわけなんだろうという気がして，本当に興味をかんじました。やはり女ですから，婚姻とか，女の神主とか，女のことに興味を持ちますね。私は，いわゆる民俗のようなことには興味を持てそうもないという出発点でしたから，はじめはせめて女だってやることなのだから，着物とか食物のことをわかろうとしました。今では楽しみのひとつですね。

〔著作目録〕

アイヌの婚姻　未来社（386.4：SK）

海女　　未来社（384.3：SK）
販女　　未来社（384.3：SK：2）
見島聞書　　民俗伝承の会（291.77：SK）
きもの　　未来社（383.1：SK）
村の女たち　　未来社（384.6：SK）
沖縄の婚姻「民俗民芸双書」第47巻（380.8：M）
しきたりの中の女　三彩社（384.6：SK：2）
女のはたらき　未来社（383.1：SK）　その他

～～～～～～～～～～～～～～

投書箱から

図書館の昼休みを撤廃して下さい。休みをとるなとはいわないが，交替制にするとか，いろいろ方策はあると思うが。

係より：現在，図書館のカウンターを休憩時間なしに全面的に開くには図書館員の勤務体制とか，その他の条件が揃っておりません。条件が揃っていないのを無理して開いた結果が，却って利用者へのサービスの低下を招きかねません。図書館側としては現在よりサービスを向上させながら利用者の希望にも添うように鋭意努力しています。

現在，この件に関してとりあえず昼休み（13：00—14：00）に館外・館内貸出している図書の返却業務に限って行います。

ただし，今後の図書館の基本的な考えとしては，カウンターを全面的に開いた方が利用者にとってより便利になり，また，サービスの向上にもなります。そのための条件整備に努力していくつもりです。

～～～～～～～～～～～～～～

日　誌（53年6月26日～9月21日）

6月26日～7月1日　第一回漢籍担当職員講習会中級（於京都大学人文科学研究所　村田参加）
7月1日　新入館員，崎村，内田（図書課）配属
5日　白山運営委員会
12日　甲南大学図書館長，竹林信一氏見学の為来館
13日　工学部分館運営委員会
21日　工学部業務研修（於東松山市松寿荘，中村，岩田，藤野参加）
25日～27日　著作権講習会　（於都道府県会館　遠藤，小笠原，平出参加）
27日～29日　私立大学図書館協会総大会（於京都会館　飯島館長，犬田分館長山内，池田，村山，藤野，高橋参加）
8月1日　独協大学図書館，木佐貫俊子氏見学の為来館
2日～5日　短期大学図書館研修会　（於愛媛文教会館　鈴木，斎藤，島村参加）
26日　図書館業務研修　（於工学部分館，白山，川越，朝霞三館職員45名参加）
9月21日　仏教図書館協会総会　（於本学甫水会館，真渓理事長，磯村学長，飯島館長ほか職員6名参加）

訂正　前号（Vol. 13, No. 2）の記事を次のように訂正いたします。

訂正箇所	誤	正
P.1　下から11行目	多枝選択式	多岐選択式
P.5　右側上から6行目	097.33：T	（省く）
P.6　左側上から3行目	——大事典	——大辞典
P.6　右側上から9行目	教養辞書	教養辞典
P.7　右側上から11行目	廻され	回され
P.8　左側下から9行目	飯島崇享	飯島宗享

～～～～～～～～～～～～～～

編集後記

読書の秋，そして食欲の秋，今回は，この秋にちなんで，第1ページから我が東洋大学図書館の貴重書を紹介してみました。そして，『朝霞からの手紙』も継続記事となりましたので，よろしくお願いします。6ページしかなく，がっかりしていらっしゃるかもしれませんが，まもなく秋のコスモス第二弾として特集号「統計から見た図書館」もできあがる予定ですので，きっと満足していただけると思います。しかし，残念なことに食欲の秋の方は私たちコスモス編集委員にはどうすることもできませんので，あしからず。

東洋大学図書館ニュース　KO∑MO∑　Vol. 13, No. 3（通巻42）1978年10月20日発行　編集：図書館ニュース編集委員会，発行人：飯島宗享，発行所：東洋大学図書館　東京都文京区白山5丁目28番20号　Tel.(945) 7314番